

第1回境川かわまちづくり推進協議会議事要旨

- 1 開催日時 令和5年12月19日（火）午後6時00分～午後7時30分
- 2 開催場所 浦安市役所4階 S2～S4会議室
- 3 出席者
(委員)
陣内会長、鈴木委員、清家委員、大塚委員、浅川委員、後藤委員、横山委員、堀井委員
増田委員、大木委員（計10名）
(河川管理者)
千葉県葛南土木事務所 調整課 須永課長、河川改良課 黒澤副主査
(事務局)
都市整備部 須賀次長
道路整備課 赤堀課長、小泉課長補佐、竹内副主査、広瀬主任主事
宮崎主任主事、河合主事
(事務局補助)
公益財団法人リバーフロント研究所 土屋、阿部、北澤、後藤、利満、坂本
- 4 傍聴 4名
- 5 内容
 - (1) 委員紹介及び会長・副会長の選任
 - (2) 議事
 - ① 境川の概要とかわまちづくりの必要性
 - ② 「かわまちづくり」支援制度について
 - ③ 境川かわまちづくりの検討経緯
 - ④ 境川かわまちづくり計画の概要
 - ⑤ 今後のスケジュール
- 6 会議経過
 - (1) 委員紹介及び会長・副会長の選任
事務局より委員を紹介したのち、委員の互選により陣内委員が会長に、佐々木委員が副会長に選任された。
 - (2) 議事
 - ① 境川の概要とかわまちづくりの必要性
事務局より説明を行った。
 - ② 「かわまちづくり」支援制度について
事務局より説明を行った。
 - ③ 境川かわまちづくりの検討経緯
事務局より説明を行った。
 - ④ 境川かわまちづくり計画の概要
事務局より説明を行ったのち、各委員より、以下の意見をいただいた。

(会 長)

- 第一回の協議会であるので、一人ずつ意見をいただきたいと思う。まず、私の方から申し上げる。
- 境川は、浦安市の中心部を堂々と流れている。歴史的に元々の漁師まちから始まって、動静を重ねながらそれぞれの時代にふさわしい居住空間、市街地を作ってきた。まさに浦安そのものを物語っており、空間的にも地理的にも中心を流れている。周囲には緑地や歴史もあり、浦安全体のまちづくりの背骨・中心軸として全国的にアピールするポイントである。このようなイメージが共有されれば、市民のプライドや愛着にもつながる。
- 浦安市はこれまで様々な分野でまちづくりを進めており、これらすべてが繋がっていくのではないかと。
- 境川は、河川区域内の空間は限られているため、背後の緑地や公園、河口部には奥行きや広がりのある空間があり、これらと繋がってオープンカフェやマルシェ等を実施していくことが考えられる。
- 浦安のアイデンティティの一つのコアとして漁師町があり、背後の非常に良い小道、賑やかな商店街、古い建物も全部含めて回遊性が生まれることを期待している。
- 清掃活動についても、単にオブリゲーションやモラルという視点を超えて、生きがいを感じながらみんな協力してやることによって、ムーブメントが生まれ、変わっていくのではないかと。
- 実際、全国の水辺再生で成功しているところに話を伺うと、清掃活動から始めたというところが多い。みんなの気持ちが高まって結集していくのではないかと考える。
- これまでの検討の中で水質改善への市民の思いが非常に強いということが分かってきた。清掃活動や水質調査、生態調査等を一体的なプロジェクトとして子どもたちにも参加してもらい、こうした活動により市民が水辺に降り立つ、あるいは船を使えば舟運やローカルな観光にもつながる。個々の活動が繋がって大きなうねりとなり浦安のまちづくりのビジョンができていくと良い。
- 今後、カフェやマルシェ等を運営する民間の経験のある、パワフルな事業者を誘致し、迫力が出てくるといい。
- 事務局から説明のあったように、既にかわまちづくりの検討以降、様々な取り組みが試行的に行われており、境川の将来のイメージについての議論も活発に行われている。本協議会と実行部隊となる境川かわまちを進める会が連携しながら進めていければ良いと考える。
- それでは、各委員の意見を伺う。

(委 員)

- 一日が豊かになるようなイベントとしてキッチンカー、マルシェ、オープンカフェ、音楽イベントやビアガーデンなど素敵なメニューを提案頂いたが、実施主体が不明確な印象を受けた。
- また、上記の活動は手段、あるいはメニューのひとつであり、その前段にはテーマが必要になると考える。テーマを設定することで、地域の文化や歴史と結びついた活動や関連事業に広がり、川を中心に世界が広がっていくと良い。

(委 員)

- カフェは常設とイベント時の両方が想定されるが、カフェだけでなく公園などがあるとカフェ自体も生きてくるのではないかと。
- 境川の元町のゴミは綺麗になっているが、鳥の糞が問題であり、解決が進むと地域の利用者にとってより快適になると思われる。

(委員)

- ・昔の境川の水は綺麗で米を洗うのにも使われ、護岸にはトンボの幼虫が多く、周辺の学校では赤とんぼで校舎が赤く染まるほどだった。
- ・新橋から江川橋の護岸は整備されたが川幅が狭められテラスは小規模となっている。また、テラス沿いに6m道路を整備する計画があると聞いているが、防災目的の道路となるため、かわまちづくりで活用できるかが課題と考える。
- ・市役所より東はテラスが水没している箇所もあるが修復すれば利用できるのではないかな。
- ・新橋より西を活用するには、周辺の家々の協力が必要であり、そのことに留意して進めてほしい。

(委員)

- ・かわまちづくりを進める中で一番の基本は河川であり、河川区域の整備は是非進めていただきたい。特に中町地域の河川管理用通路は未舗装部分が多く、整備を進めてほしい。
- ・かわまちづくり、公園整備、市街地整備を連携づけて進めてほしい。
- ・また、利用促進のため、河川だけではなくその周辺についても利用のルールやカフェ等を開く上での景観的なルールが必要と考える。
- ・最後に、作っておしまいではなく、メンテナンス面を考慮して進めてほしい。市民活動で実施できる範囲もある。

(委員)

- ・「水・自然環境」分野の基本方針である「かつての境川の自然環境と生物の再生」を実現するために、昔の原風景を残す必要がある。河口部の公園予定地を活用し、原風景を体験できる場所や水辺に触れられる環境、水上交通の利用を検討するなど、境川だけでなく、そこから東京湾、三番瀬と広がりを持ったスケール感で検討していく必要がある。

(委員)

- ・市民団体は活動の拡大は難しく、営利的活動が可能であれば民間事業者に参加いただきたい。境川かわまちを進める会にも参加を呼びかけ、市民の思いを引き継いでいただきたい。
- ・水・自然環境の基本方針「かつての境川の自然環境と生物の再生（楽しみ、学びの場）」について「楽しみ、学び」というのは良いが、かつての自然環境を再生することで現在の生活とうまく密着できるか疑問である。「再生」という言葉を使用するのであれば、関係者で議論を行い、「かつての境川」のイメージを一致させる必要がある。

(委員)

- ・市の企画部署として、市民からのアンケートや意見を収集している。市民からは水辺に近づきたいという意見が多く、千葉県とともに河川や海岸の整備を進めている。境川の水辺にもっと近づきたいという市民の思いは強い。
- ・浦安市は地域ごとに年齢構成が大きく異なり、今後人口減少や少子高齢化が進展していくため、長期的な目線で、高齢者や若い夫婦世代、子どもたちが境川に集まり賑わいが持てるような整備を期待している。

(委員)

- ・浦安で生まれ育ち、境川の変化を見てきたが、鴨の集まりや清澄な川に感慨を覚える。かわまちづくりに関わり、イベントを行う中で、キャッチーな言葉を使い市民の心に響かせたいと感じる。目的や意味を重視し、広がりを生み出したい。

(委員)

- ・私は平成30年度の境川修景整備検討部会という市の内部組織から境川の今度のあり方についての検討に携わり、市民の意見を聞きながら検討を進めている。
- ・令和3年度からは境川かわまちづくり懇談会が始まり、沿川住民や境川の利活用団体にも参加いただいているが、当初に比べ、「自分たちに何ができるのか」という主体的な意見・機運が大きくなり、意見や思いが集約できてきたと感じている。
- ・境川では既に多くの活動が行われており、これは全国の他の地域にも負けないものと思っている。支援制度の活用により既存の活動に営利活動も併せて行えば境川を中心としたまちの活性化やアピールにつながると考える。皆さんにも積極的な意見を出していただきたい。

(会長)

- ・本日欠席の佐々木委員からの意見はあるか。

(事務局)

- ・佐々木委員には、事前に資料説明を行い、次の意見をいただいている。事務局より申し上げる。
- ・境川のこれまでの検討経緯と、すでに現地で様々な活動をしている方々の熱量は素晴らしいものがある。「かわまちづくり」という制度を使って、より具体的にさらに発展していくことができれば素晴らしい。
- ・そのためには、「今、物理的な河川条件等の制約がある中でも、境川で様々な活動が行われている」ということの「価値」を、より多くの人に共有していただき、そこに参加する輪を広げ、今ある価値をより高めるための空間整備について、そのデザイン、ディテールまで含めて皆で考えていくという機運を、かわまちづくり制度のもとで具体化していただきたいと考える。
- ・是非、「皆がなりたい姿」と「今ある価値」が共有できる媒体が資料作りを含めて充実していくことを期待している。
- ・全体図の中にハード整備の内容はあるが、キッチンカーやカフェ等、ソフト施策の具体的な内容が落とし込まれていない。また、計画書のソフトとハードの記述が対応していないように見え、「ハード整備によりどんな活動や水辺の使い方につながるのか」ということが分かりにくく、結果として計画を見た時のわくわく感につながっていない。
- ・仕組みづくりや体制づくりの議論の際には、キッチンカーやカフェなどの具体の活動を想定しお金の流れや体制が理解できるような資料づくりが求められる。
- ・以上である。

(会長)

- ・全員から意見をいただいた。ここから自由意見交換とする。
- ・先ほど、河川区域内で行う営利活動の実施主体について意見をいただいた。実際にはケースバイケースとなると想定されるが、事業主体やその主体をどのように呼び込むか、運営方法などについて事務局より考えがあれば示していただきたい。

(事務局)

- ・境川かわまちを進める会でも議論しているところであるが、これは市民団体や沿川住民を中心とした組織となっているため、活動の営利化の視点が不足していると考える。
- ・まずは市民団体で活動し、社会実験を繰り返しながら、民間事業者の誘致も含めた活動の営利化、拡大を検討していきたい。本協議会でも意見をいただきたい。

(会 長)

- かわまちづくりなどの制度を使うと、区域内で今よりも自由に活動できる。営利も可能で、全国で成功例がある。例えば東京の台東区ではオープンカフェが利益を上げ、地域還元役に役立てられている。常設の良い水辺施設ができる可能性がありそこは非常に良い条件になると思う。
- 先ほど境川かわまちを進める会にも民間事業者の参加を呼び掛けるという意見があったが、そのようなクロスオーバーが今後非常に重要になると考える。

(委 員)

- 震災の影響によりカフェテラスin境川の実施が見送りとなった際、ホテルや他の市民団体の協力をいただきながら、市民活動補助金を利用し、春夏秋冬で小規模ながら4回カフェを出店したことがある。翌年からは市の事業として再開された。市民団体では事業を大きくすることや継続することが難しいが、小さく始めるというのは重要である。
- クリーンアップ等、市民団体だけでもできる活動はある。

(委 員)

- 企業でいえば、企業理念がありそれを実現するために事業がある。浦安も「人が輝き躍動するまち」という理念があり、そこに向けた課題があるが、そのような課題解決のための事業というように体系的に整理した方が、一つの方向に進んでいるという実感を持ち、市民の気持ちの一つになりモチベーションが続く気がする。

(委 員)

- 「イベント的なもの」と「日常化」が非常に重要である。「ふれあいの森公園」という公園に関わっているが、人が来なくなる魅力的なものをつくり、そこに行けば様々な体験ができるというのが重要である。
- 浦安の原風景の再生もふくめ公園に「田んぼ」を作り、小学校、こども園・幼稚園、保育園の子供たちが「お米づくり」体験・学習を行っている。先日実施した公園の「田んぼ」でとれたお米のワラを使った「しめ飾り」のイベントにも多数の方が参加した。川の中だけでなく、周辺も含めて一つの拠点をつくり、イベントや体験を通じて人が集まるような形を作れると良い。

⑤ 今後のスケジュール

事務局より今後のスケジュールについて説明を行った。